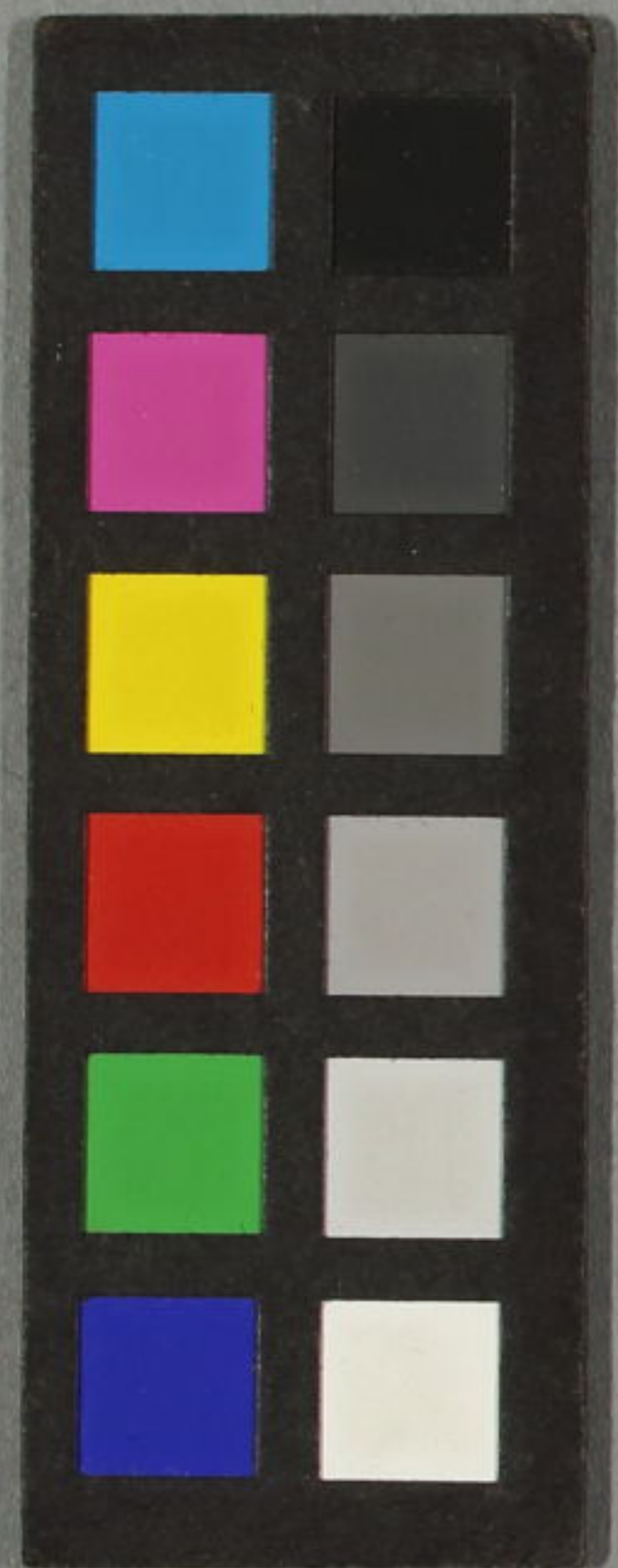


夏歌  
秋歌  
上  
冬歌  
下

二



戸川



古今和歌集卷第三巻終

夏哥

歌一らん

よみ人あしき



永成やの比乃屋ねと笑ふらしてはほととぎすいつらきおろし

○コナノ池ノ池ノ池ノ花ガ咲タワイ 郭公ハイツ来テナクデアラウ

此しこけ人のいしくかきあゆまのくまらぐん

うづきふささけの梅をうらしてよまを家

紀と一らん

あつとてよと海河甲のふちらとよまふちらとてむとりのあきら

○今月ニナウテ梅むノアルハツライイコチヤコナニテモ見ル人がアハレ

又ゴトナア、ハシヌヲナト云、ハシヲ  
リガサウ云、ウト云フテ、ロザト去ヨリ後ニオソウヒトリ候タテ  
アラウカ 。千林云、姑白アリ、ウケリを  
からして、ウケリを

歌 よみ人

きつきやりの心動をうらもきまふもなるよみひとをれあふ

○ 郭公ハ五月ヲ待テ、ウツギヤガ、一ダテ五月ハナラ子尼、去年ノ沙リクフルコ

ゴラ知シテドウゾ今モナケカシ 。千林云、うらもきまふもなるよみひとをれあふ、  
ゆりと云、ハシ澤をまきハナク、ウケリを

伊勢

五月ニバぬきもゆりぬき、動をまふもきやどの、しをまきうらもや

○ 時もハ五月ニウツナラバ、モウ天山ニウツテ、ツラウナイデモアラウ、ドウゾ

一ダテ、時弟ニナラヌウチノ声ヲウタイモノチヤ

よみびと ウケリ

きつきやりの心動をうらもきまふもなるよみひとをれあふ

○ 五月ニサク橋ノを、ニホヒラカゲバ、一ヘカクナジミ人ノ袖ノ香ガサスル

ウツノよふあつきぬ、ひわ、ハシきは、ハシ、ウツノよふあつきぬ、ひわ、

○ イツマニ五月ニウツヤラ、ヒゴロ、主待メ、ウツヤラ、今始メテ、サナクワア ウツ

ハシ、ウツノよふあつきぬ、ひわ、ハシきは、ハシ、ウツノよふあつきぬ、ひわ、

○ ケサ始メテ、来テ、マダ、エ、佳クカズニ、旅ガケテ、居テ、ウツノよふあつきぬ、ひわ、  
ヲトビテ、アラウガ、コナク、をナ、橋ニ、宿ラ、バカレカシ、ソニ、タラ、存分ニ、ウツノ

おとは、ウツノよふあつきぬ、ひわ、ハシきは、ハシ、ウツノよふあつきぬ、ひわ、

まじれとこのつと

まね山りくこえらきばや〜まじれ指もろくふつりたなくぬ

○まね山ヲケサ紙テクシバ時キガアハルカナ指テアレ今始メテサ  
ナクワ まね山〜つとふ郭公の声のまじれ

ほ〜まじれのをどまじれつり〜まじれ〜

まじれ

わ〜まじれ〜の〜まじれ〜まじれ〜

○のまじれ始メテつとキケバオモロウハア尻又サ何トウカニヤウガオコワテ  
まじれ益ナ〜入ト定マツタ〜モナイまじれゴチガスル まじれ〜まじれ〜ハ又〜  
けまね山〜のまじれ〜まじれ〜

な〜のいそけうこちにて郭公はなくぬとせ

心そのう〜ぬまじれ乃郭公あまじれり〜まじれ〜

○け石上ノアタリハ昔ノ奈良ノ都ヤガ今ハモウ何モカモ昔トハ愛ツテシマウ

タニ郭公声バカリガサカラズ昔トホリちりヤワイ 詞去ぬ石上寺ハ

ふまじれ石上ふあ〜と奈良〜まじれ〜の京〜石上〜

まじれ〜まじれ〜の京丹はまじれ愛岩アキダ

ふまじれ代ま〜京の愛岩とふあ〜 おまじれの流むが〜

まじれ〜まじれ ちりヤワイ 詞去ぬ石上寺ハ

まじれ〜まじれ〜まじれ〜

○ア山テナマヨ心ガナラハヤウニ物思ヒラニテ井ルワニキカニテクニナイ



アリタケハシイデテ コナクをデナケ

みふのまら

やよやよと山影をあつてつてひる夜その中にらみまびぬとよ

○山へカハル時多ヤイノウ ちヨト待テタモ コトツテラセウ ワシモウ世ノ

中ニ住アグニタワ<sup>とよ</sup>ソレテ遠付ワシモ山へコモラウト思フホドニ サウニテタモ

寛<sup>とよ</sup>平<sup>とよ</sup>は時きさふのまれ歎合乃

紀友別

ちとどれよおぢひをさば時をねほくつていつちゆくらうき

○五月雨がフリワイテイヨク夜モヤクヤト物思ヒラシテ居<sup>とよ</sup>ハ時多ガワテ

イクガ夜モフケタニ トチイクヤラ オモヤウデハドナナリヒイキタイ

おやぐつ<sup>とよ</sup>にさやほどへる郭<sup>とよ</sup>ふおぢやを<sup>とよ</sup>もるかてしう<sup>とよ</sup>ねく

○夜デタライニヨツテドチモイカナカ 又八道ニヨウタカカ 郭公ガ<sup>とよ</sup>馬モ

多イニヨナクを<sup>とよ</sup>バツカリ ドウモ<sup>とよ</sup>ニテイナレヌヤウニギツト<sup>とよ</sup>ワテヤル

大にふる里

やど<sup>とよ</sup>とせ<sup>とよ</sup>と橘もかきねくふねや<sup>とよ</sup>時多<sup>とよ</sup>く<sup>とよ</sup>あえぬ<sup>とよ</sup>む

○宿カテ居タ橘モダカレモセヌニ 時多ハサセヨソイ<sup>とよ</sup>テ声モセヌヤウニツタヤラ

きのほく<sup>とよ</sup>ゆふ

まねねのぬまか<sup>とよ</sup>しきれ<sup>とよ</sup>ハ時多<sup>とよ</sup>ねく<sup>とよ</sup>一<sup>とよ</sup>あ<sup>とよ</sup>ら<sup>とよ</sup>あ<sup>とよ</sup>ら<sup>とよ</sup>志<sup>とよ</sup>の<sup>とよ</sup>め

○子ルカト<sup>とよ</sup>思<sup>とよ</sup>ハ時多<sup>とよ</sup>ノナイタ一声<sup>とよ</sup>テハヤモウ<sup>とよ</sup>ぬ<sup>とよ</sup>ガタニツタ<sup>とよ</sup>サテ<sup>とよ</sup>く<sup>とよ</sup>短<sup>とよ</sup>イ

夜カナ<sup>とよ</sup>下<sup>とよ</sup>句<sup>とよ</sup>又<sup>とよ</sup>ハ 郭公<sup>とよ</sup>チ<sup>とよ</sup>タ<sup>とよ</sup>声<sup>とよ</sup>デ<sup>とよ</sup>自<sup>とよ</sup>ガ<sup>とよ</sup>サ<sup>とよ</sup>タ<sup>とよ</sup>ガ<sup>とよ</sup> ハヤモウ<sup>とよ</sup>夜<sup>とよ</sup>ガ<sup>とよ</sup>ア<sup>とよ</sup>ケル

志の心を打つめく、朝の目と暮るるに、後の澤へ、  
のめり候と云し。  
。子結云、幼白れのゆが、かのことせし。  
結のあつへは、くはまり

みよのゆがみよ

くういあといんきぶめぬるまれば、  
○日ガクルカト思へば、ハヤアケタけ  
ウ思フテ、郭ハアノヤウニナクカヤ

紀秋峯

まゆり一息一死人や入ふりむ  
○此山へ時多ノ息シウ思フ人ガ  
ナク 館材まろし ちばよあし

野々山

いみん

ここの夏多きあつてし、  
○去年ノ夏多サニタエズナイテ

ハ去年ナイタも時多を、サウテハ  
郭そのあつてよあ、

なりするの、  
○時多ガわ月雨ノモドド、

イト思フテアノヤウニナクヤラ

まろしあつてよあ、  
まろしあつてよあ、

ほやぎとをうもすしむ心考ハほやふ鳴るはてしやハをぬ  
○ 郭がナクカクト一テ声モツエヌガヨソテ鳴る多ナリトコへ  
ヒイテツエバヨイニ 山考ハナゼニコへヒカサヌツイ  
心やとぎのつらきことしよめる

つゆに

郭人ヤウ山やうはくま色はうちつきふきまらり  
○ 人が来モセウカト待テ居ルハ松山ニアノヤウニ郭ガナケバ今マデ  
ハサホトニモ思ハナダガニカニコチモ人ヲ待ツ心ガサツタワイ  
まやとぎのつらきことしよめる  
こようをぬ

むしや今と云一記郭をぬらやも鳴るまの

○ 竹をヨソチモオレト同シヤウニ昔カ今デモ思イカ不モ多イニハ本ノ  
在取へ来タノハ昔ガ思イヤラ

竹のつらきことしよめる

○ 世中ヲウイ物ニ思フテ泣テクラスモハオチヤカ竹をハオレテハナニトウイフ  
テ世中ガウイトニテおむアタリヘキテアヤウオレト同シヤウニ泣テクラスコトヤラ  
こちまのあをこえてよあ 傷心遍照

こちまのあをこえてよあ 傷心遍照  
○ 蓮ハ世中ノ濁リニソ又譬へニ法經トイテアルガサウニ 清浄ナ心



テナゼニアノヤウニ葉ノ赤ヲ玉ト見セテ人ヲバダマスコトゾイ

月のおもしろかりらるよはうつしまがふよるふ

ふりや姫

ふれおらまごさるおごめぬはげやのつごふ月やごるせ

○ア、ヨイ月デアツタニ、なノ夜ノ短イ一ハマダヨヒノマテフケルモ  
ナニハヤ明タモノ、コノ夜ノ短サテハ月ハ、西方ノ山マデイキツクるハアルマ  
イガアリ、曉ノ雲ノドコラニトツタヤラ

とがりよるまのしのもさひにおあせりりれぎ  
しをよみてはらるる、みつ

らるるまのしのもさひにおあせりりれぎ

○手あノトコナウハ、カトウシガニ入寐マス床ナツテ、大クノテゴサル、花カ

サイテカラハ、塵サヘカケイトサ、存スルホド大クノテゴサル、折テ、エシニゼマ

スミイ、千秋云い、夕上句、三ニニト、  
句を決行してるへ

みる月のひごりけりよめ

みる月をゆきうそをむひぢ、かこへまじき風やぬくらむ

○今、晩クヒテユク、及ト来ル秋トイキチガウ、夜ノ色リ道ハ、ツノ、及ノ  
通ツテ、ユク片一方ハ、ダ暑ウテ、秋ノトホウテ、クル片一方ハ、スミイ風  
ガフクデアラウカイ

古今和歌集巻第四巻を流

秋歌上

秋の月日よめ

藤原敏成の歌

あきしぬく先ゆきさやふんしんしんしんしのまをさかろふねる

○秋ガキタツイフテソトハツキリト目ニハスエヌケトケフハ風ノ音ガ

ニカニカウタテサ コレハ秋ガキタワトビツクリシタ

秋の月日人のをのこどもかどの川系に川さうえりし

いづこふまかりてよめ けしゆめ

河風のそびーんとけうらうらよする信しとよや秋をさうい

○川風ガサテモニア涼シイコカナ信モ立トキ秋ノ来ルモ立ツトイ

ハ此岸へウチヨセル浪トイツシヨニ 秋ガタツタカシラヌ

類ありて

いみじくもいづ

コガセコガネのまをそび吹之しうら免つしき秋は初うぞ

○上コシクメツラシイ秋風ガヤ サテモ涼シイコロヨイ

海村ふとがせこハ女とせりしんいづかきいづかきいづかきハ女

のまねぶー又う林良材集おしきいふハいづかきいづかきハ女

古々集おあつづいづかきいづかきいづかきいづかきいづかきハ女

秋風ぞぬくこれいづかきいづかきいづかきいづかきいづかきハ女

きののうそそいづかきいづかきいづかきいづかきいづかきハ女

○一々昨日コソハ田ヲウエタソニニア イツマニハヤウニ稻ノ葉ガソ

ヨクトシテ秋風ノフクヤウニナウタフグ

秋風の吹ふ一日もさかたの川系にもぬ日ハ形し

○ワニハ秋風ノフクソメタ日カラシテ 毎日ハヤウニハ天川ノ川系へ出

テ立テ 君ラマタ又日ハ日モナイ ○秋云はち形どハあるまじくつめよ  
るりてよめハセタのちハ形多し。

ひさかた此天の如く一のまじくも君後ア形バウぢぢかたてよ

○天川ノ渡シ守ヨ 君ガコチラハ内渡リチサツタナラ 千キニミ船ノ掉ヲ

シレヌヤウニカクシテオイトクレイソニタラ 川渡ツテ内カヘリチナルガナ

ニイニヨツテ イウニテモコチニ内逗苗デアアラウニ

天川もみち内橋ふくくセツヤもねぢくつめハ秋をくもまじく

○天川ノ橋ニお宿多渡スニカシテ時<sup>五</sup>モ多イニ 柳枝松ガ秋ヲ内待ナサル

あひくしてりやよいそひそは海の方まじりあをきずもあまむ

○二年ノアヒガ長ノ月身<sup>五</sup>まじりテ 名タ一夜彦星ト柳枝ト内遊ナサ

ル夜ハヨヨヒチヤ ドウグテ天ノ川へ 夢ガ一メニ立テ 野ウチヲテ

イウニテモ夜ガアケ子バヨイ

寛平の時のあぬのようふさぎぬまのうらみとさまれし作

せしめる人よらるるよとととのり

何あがは浅瀬きくあまのうらみとつはアまじりねばあまきとまじりは家

○は天川ノ浅瀬キラシラヌニオボツカチウテ 水チカラアチヤコチヤトシテヒマドツ

テマはツテシイモセヌチニサ ハヤ夜ガアケタワイ ○秋云ハの白糸をハ  
ぬきのまじり

何は時きくあぬのうらみとさまれし作 寛平の時のあぬのうら



○夕ナバ夕極ハサツ 今日カラシテハ 又今カラ来年ノ七月七日昨日ヲサ  
イツカ〜トヒタスラ待テ月日ヲタテサツニヤルデアラウト思ハレル

題名〜

よき人〜らむ

こぼれしものもさるる月の影もさるるさるる〜秋をさるる

○ホノ枝ノるガモツテクル月ノ影ヲ見バ 度ウスルトハチガウテスコツツホカス

エ子バサテ〜シキナ物ギヤ 是ヲ見バ今カラ越躰モゴトシキナ秋ガキタワイ

大〜この秋ら〜か〜ふ〜さ〜を〜さ〜き〜ものと思ひ〜ら〜ぬ

○世る一回ノ秋ガキタカラシテ人ハヤウニナイサウニオヒトリガサ秋ハカナ

シイ物ギヤト思ヒシツタ 秋ハオレ独ノ秋デハナイ世る一回ノ秋ギヤニ  
さるるさるる秋〜も〜り〜ぬ〜ふ〜ま〜れ〜ひ〜ま〜を〜ど〜ろ〜ど〜思〜き

○オレニ悲シウ思ハサウタメニ来ル秋デモナイニ 虫声ヲキケバ人ヨリ  
サキヘマツ一番ガケニサ オレハカナシイ

物あ〜ふ秋ぞか〜き〜も〜み〜ら〜つ〜う〜つ〜ろ〜ひ〜ゆ〜く〜成〜限〜り〜と〜る〜ハ

○<sup>三</sup>葉本ノダテ〜色ガハツテ <sup>四</sup>友テイクノハ <sup>五</sup>葉本ノシイニナルノギヤガ

オツケサウ物ノシイニナル時節ノハジヤヤト思ハ 越躰ノ物ナニツケ

テモ <sup>ニ</sup>秋ハサ 悲シイ ちやよら〜 何材もあ〜

さ〜りぬ〜と〜し〜る〜葉〜み〜け〜し〜も〜れ〜く〜よ〜い〜い〜あ〜ま〜かり〜ら〜

○<sup>三</sup>葉本ノコフ秋ハチデヌレルモノナレ ワシガヒトリ子ル床ハ葉ノ葉デハ

ナケレドモ 秋ニナレバ 花ハハヤウニ海デチヤウニヌレルワイ  
あ〜ま〜さ〜ら〜れ〜み〜の〜あ〜乃〜ら〜合〜れ〜

つらきとはめきこかひど秋の夜もものぢよさくけりぬりぬり  
○イワハ物思ハヌ時チヤト云ハ時ノ差別ハナレニイワデモ物思ハアル  
ケドワウチニモ秋ノ夜ガサ イワチ物思ヒスル頂上チヤワイ

かむらりてはほがふんくわつりて秋の夜も一むす  
ふみろついでふよる みつね

はがハ心持オノボの内こそ梅壺を掃壺ハクぬりつとそその心持の内小  
あふまふはもてそこの舎は異名にあらぬかむらりのつねも  
雷の音かみくるゆかりあり矣アななれと壺コト字ハ宮中術謂之  
壺コトとつとこ器の壺ハ別ありまがやこてわうも  
かくぢりきとそよあはれつづふねてはもてむんくさうん

○コレホドニ面白イヤツタラ秋ノ月夜ヲ寐テシムウテムツツサツツトツツトツツトツツト  
モアラウガサウシタ入ニテガサキコエヌトチヤト思ハル 竹材ツツづ  
の尻ツツらツツーツツツツツづツツふツツねツツてツツハツツねツツてツツつツツづツツあツツくツツらツツぬツツづツツし

野ツツーツツらツツぬツツづツツしツツ とうまびやあし

ふツツきツツふツツもツツちツツらツツふツツーツツとツツぶツツるツツのツツねツツさツツくツツんツツゆツツるツツ秋ツツのツツよツツれツツ月  
○サテモサヤカナ月カナ 雲ツツトツツツツツホツツドツツラツツイツツ空ツツラツツツツツダツツツツツトツツニツツテツツクツツ雁ツツノツツ教  
マデガヨウヌエル ○ふ林云くひらちかきーハツツもほくちりて居る  
さよ中ツツーツツあツツハツツゆツツきツツぬツツしツツ屋ツツがツツのツツゆツツゆツツちツツりツツーツツ月ツツこツツもツツあツツるツツ  
○夜ハイカウフケタモウトト夜半ニツツタサウナ スレバ居ノチク声ノ  
ウエルズツツラノ方へモウ月ガマツタ

是夜みこの秋の分命も大に子星

月をきばちふものごとかあしはさるゝの秋ははらへる

○月ヲスレバオレイウクトおガサ悲イワイオレヒトリノ秋テハナケレド

あぢみ

おきり<sup>ほ</sup>お月乃うらも秋はあやのみぢきれをやてとまらむ

○月ノ中ナ桂ハハ玉土ノ木ノヤウニ秋チヤト云テモお紫スルナドニ<sup>ハ</sup>アリソモ

ナイモノチヤニソレモヤツハリ<sup>あひ</sup>秋ハお紫スルカシテ<sup>まはる</sup>イツモヨリハ光<sup>り</sup>カテ

リマサツタお紫シタニヨツテハヤウニ照リマサルデアラウ<sup>ん</sup>おアツマらし

月をきばちふ

左のえ方

秋の夢は月のむらりしあけきばら<sup>ん</sup>のゆとあぬげ<sup>ん</sup>まり

○ハヤウ二月ノ光<sup>り</sup>アカイ秋ノ夜ハナニボ闇イクラブ山デモ越レウトヨレ

人乃もやふふあしり<sup>ん</sup>あまきら<sup>ん</sup>ぐまのあきけ

あけき<sup>ん</sup>あしり<sup>ん</sup>あまきら<sup>ん</sup>ぐまのあきけ

きらむぐ<sup>ん</sup>あしり<sup>ん</sup>あまきら<sup>ん</sup>ぐまのあきけ

○コレ西亭主<sup>ハ</sup>心昔ガオホウテイウ<sup>ク</sup>ノヲ思フテ夜ノ長イヲ明

シカ子ルトイハシヤルガ<sup>ハ</sup>西亭主<sup>ア</sup>ノキリ<sup>グ</sup>スト曰シヤウニア<sup>リ</sup>泣<sup>カ</sup>ルナイ

心昔ガ多ウテ秋ノ夜ノモイノガ<sup>イ</sup>ワク<sup>チ</sup>ハ<sup>キ</sup>根ヨリ<sup>ハ</sup>拙者ハサナホ

ノコトチヤワイ<sup>ハ</sup> 飽材おアツマらし

是夜みこの秋の分命のあ<sup>や</sup>し<sup>き</sup>の秋

秋はよのあ<sup>や</sup>し<sup>き</sup>の秋

○は長イ秋夜ノアケルモシラスニテヤウチク虫ハオレガヤウニアレモ物が悲シイカミラヌ

影るる文

よみ人〜ららぞ

秋夜もくもくもぬもぎきりくもわが秘ぬもやうらハかろ〜き

○秋ノ夜モ色ヅイテソロク枯カケテクル時ニナツクハ物悲ウテ夜モ子

ラレヌニアラ替モ同シヤウニ夜ハ鳴ハソチモオレガヤウニ物がカナシイカ

秋の夜をさう〜とあ〜ふきかじしきひ〜ふひ〜の〜ぶ〜きば

○草ムラゴトニアノヤウニ虫ガ難<sup>シ</sup>義ガツテナクノヲキケバ秋ノ夜ハあ

カサカクヘツニキイサウナ

君志のぶ草あふら〜ぬ〜は〜ハヤウ虫のさる〜か〜かり〜

○人が見ステ、ヨリツカイテドモカモキツウアレテ軒ナドハシブガハエテ

又若シウツテ其人ヲ恋シタテ居ル家デハ〜をデナク松虫ノ声ガサ

人ヲ待ト云名ユエカ一入カシウサエルワイおややつ〜のほ〜りし

秋のせ〜〜もほ〜ひぬ〜虫のさる〜方にあ〜か〜は

○此秋ノ野デモウ日モクレニ及ブ道モフミヨウタホドニアノ人ヲ待ツ

ト云名ノ松虫ノ声ノスル方ヘイテ宿ヲカツタモノデアラウカイ

あは乃やに人〜ら〜れ〜了〜あ〜〜は〜い〜さ〜ふ〜

○此秋ノ野ニアレ人ヲマツト云名ノ松虫ノコエガスルワソチヤオレラマツ

ノカト云テドレヤ行テオミマヒヤサウ

ゆみぢ葉のなては〜れ〜る〜ま〜が〜座〜ふ〜誰〜を〜あ〜る〜虫〜ら〜り〜

○モミチガ散テツモツテ誰モフミ分テ来タ人モナイコチノをデタレラマツ





○キツウ早ウア雁ノイタノカキ 暮ノ色ドル木モダロクニ紅葉モセヌウキニ  
暮ノ夜ノもみくつあーかつらぐのいんをどつらあ 秋をけしへり

○暮 雁ノ中ヘカスニニエテイニダ居ガソノ時ノ夜ト同シヤウナ秋  
ノ暮ノウヘノ方デ アレ今ヤ又ナクハ

物をさみみし終もかりが子那くまふおの下葉もうつらひふる

○夜がきサニ衣ヲカルト云名ノ鳥ノ鳴ニツヒテ 秋ノト深モウツロウタロイ

此のあゝあゝ人のいしくかきのももあの人まらぐえし

定宿満きまのちれあ合のち 暮京菅根野屋

秋風よ身をほふあきましく 船ハらるのい海も居あがけりけし

○アケクアノ暮イ 海ノヤウナララ 秋風ニ声ヲ高ウ帆ノヤウニアゲテ

船ノヤウニヌエテ来ルモノハ 鳴テワタル雁ノヤウイ

かりおつらう海すてあゝみほ子

うねしげ思ひつゝねて居る子のねぶしをほき秋のうねく

○乃ノイクワモワラナワテはテワタルヤウニオハ秋ノ夜ノウイノ  
お、ヲオモヒツケテ毎夜くはテサアカスワイ

是れみこれ家のあ合はう 心界

山里ハ秋ノうあゝふとびり 秋をけしへり

○山里ハイウデモト云ウナニ 秋ガサ別ニテツラウナニギニルワイヨルく  
鹿ノナク声デ目ヲサシテハ夜ハき何ヤラカヤラト 雑草ナララモツケレテサ

とみおやうしん

あつふもみぢゆめをきつる声なきく時ぞ秋をうけしき  
○秋ハ熟新カナシイ時ぞは千ヤガも秋内デハ又ドウイフ時ガイツチ悲  
シイフトイハお紫モモウ友テヒウタ奥山デフ友夕お紫ヲ 麻ガフミ  
ワケテアライテハ声ヲキク時分ガサ 秋内デハイツチ悲シイ時ぞは千ヤ  
ゆめをきつる声なきく時ぞ秋をうけしき

秋をきつる声なきく時ぞ秋をうけしき

秋をきつる声なきく時ぞ秋をうけしき  
○秋ノ葉モ枯レ枯テイクラステ 時ぞはお紫ガサニハヤウニウナジヨナ  
ゲテ居ルノニドウニテアライヤウニ山ノ下ニテヒクホド麻ガウゴトヤラアノ  
麻ノ声ヲキケバイヨク此ノウラドウモ夕ラニをきつる声なきく時ぞ秋をうけしき

秋をきつる声なきく時ぞ秋をうけしき

○野ノ秋ノ中ヲフミアラヒテオシラセテニカラニニテハアルク麻ノ目ニスエイ  
テアニア声ノサヤカニヨウナエルトワイ

○秋ニちハ麻ニハのほろろをきつる声なきく時ぞ秋をうけしき

○アヒ秋ノ花ガサイタワイ 山ノ麻ガモウナクテアラウカ

ひかーひひかーしてはるる人の秋乃やあてあひておぐり  
しるはいてふよきく みつね

秋をきつる声なきく時ぞ秋をうけしき  
○秋ノ去年ノ古枝ヘアリアトホリ 又花ノサイタラスレバ 草木デモ

一へカタルヲラハ忘レハヒセヌワイ スレヤソコモトモ 中絶ハ後ニタケレ  
ド先年此コノイニ後ニタケハオワスハナサルニイ

影あらしむ しみくしむ後

新をぎぎ下紫をばく今よりやをるといふ人のついでふま

○萩ノ下紫ガソク 枯カケテキタア 恨ト夜ハ長ウナラウ いまモウヨカラ

又オレガウナ独ズシ者ハ子ラレヌデアラウカイ ○小林よばたの白鳥

つらつら後やおらつら思ふをのそ乃とせは

○アハテ悲シイコトヲアノ萩ノウへ、おガキツウニゲウオイタガ

空ヲワタル雁モ オレガヤウニカナシイ<sup>レ</sup>ガアルカシテ泣テイク スレヤアノ  
雁ノナク後ガオチタノカシラヌアノ萩ノあハ

萩のあまりぬむいどれをまぬい<sup>て</sup>るむ人ハ枝をが<sup>ら</sup>んふ

○萩ノ萩ガキラクトシテアマリヌサニ玉ニテツナカウト思フテトツタヒ

チキニ消タテワソニテラヌヤウト思フ人ハトラズニハリ枝ニアルマテヌヨサ

いふのやうはあはれのみうどは<sup>ら</sup>しむ<sup>ら</sup>しむ

をりて尺ばおちぞぬぎ萩萩の枝とをりておらふふ

○萩ノ花ノモヒウクトタワムホドオイタアノ萩ガキツウヌ<sup>ら</sup>ナガ

アレヲ折テ取テヌヤウトシタナラ サダメテ落テシウテサアラウ

をぎぎふらつら<sup>ら</sup>せ小ぬの<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>ぬ<sup>ま</sup>てを<sup>り</sup>ひさよ<sup>は</sup>ぬ<sup>と</sup>も

○今夜妹ガトコロイカウト思フ 野乃ハ萩ノ花ガ折テサゾ<sup>も</sup>源イデ

アラウガヨイワヌレテイカウゾ 夜ガフテ<sup>あ</sup>ハ<sup>シ</sup>ゲクトモ <sup>あ</sup>を<sup>お</sup>し<sup>よ</sup>ハ



野々子

そのこゝろ

をみるべしあやかしやせふやせむあややくりごのなまやまひ

○女らむのオホクアル野ニトマワタナラあやしくワケナイニアダナ名ガクウ

カレラヌ 女ヤト云名ガカリテコフアレ オノ女デモナイニ

朱雀陰のそと野々子あせふよみそなりき

たのおろそましくちきこ

をみるべし秋の世れようちねびきむむとつげたまふよきむ

○ヲミナガ林の世れニヒクガタニヨセテアノヤウニヒクヤラ

むむとつてつとむとつとつとつと

藤原定方御代

秋のこゝろあやかしやせふやせむあややくりごのなまやまひ

○天ノ川コリタナバナノ秋デナウテハアヌ所ナレ アノ女は花ハ天ノ川ハ

ラニエテアルデモナイニ 秋デナウテハアヌガナリガタイ女子ヤ

ほろゆき

あやかしやせふやせむあややくりごのなまやまひ

○誰ガ飽アイタトイフ秋デモナイニ 女郎花ハドウシターゾアノヤウ

ニ色ニ出テ眼デ マダ早イニウツロクハ

みゆき

あやかしやせふやせむあややくりごのなまやまひ

○アノ妻ヲコヒシタウ麻ガサアレナクハ 池いけナヤツチヤ 女郎花ヲ己ガカヨ



おふろをむらう〜むをみる〜あやうるせふゆるま〜あを

○そけいな色くの花ヲハライツハイエズニナゼニヤウニカハルヤラ 女良を  
ノ多クアルセテコヨヒハ子ヤウテアツタモノヲ 女ト云名ナレバヨイトリ所チヤニ  
乞欠みこはぬのう糸よあや〜ゆきのね

なふくろき〜ぬぎかき〜夜をぬく〜秋をふゆをゆを〜次

○はフチバカハニカカタ何人ノ着テヌキカケテオイタ袴ヅ 毎年〜秋ニナ  
レハ世ヘシラホス 今ニハヤウニホウハナデモコレハナニタイテイノ人ノ袴  
デハアルイヨク〜レキ〜ノ人ノ袴デ 香ガヨウレメテアルユエデアラウ

袴袴をよみて人よき〜ゆき〜ゆき

やどりせ〜人のか〜こらぬら〜ぬこ〜れが〜あよあひ〜

○は夜袴ハイツツヤハ方テオトリナサレタキ後ノ形足ニオイテはゆり

ナサツタ袴デヨサルガ今ニラスガ多ク香ガ示フテサキ後ノヲハナツカケ存スル

ぬらぬらをかき〜ゆき〜ゆき

ぬし〜らぬの〜とあわへも秋のゆふ〜ぬがぬき〜ゆき〜夜を〜ぬらぬら

○はフチバカハハ秋のゆへタレガヌイテ掛テオイタ袴ヅマア 主  
ノシレマ香ガサニホウテアル

ぬらぬら〜ゆき〜ゆき

今より〜はる〜あす〜花〜はる〜秋ハわび〜り〜

○スキハドコモ多クサニアル物チヤガソレヤトウモセウコトガナイチヤガ  
今カラセメテハコチノをニナリトモ極テハ又ヤウニセウゾアヤウニ落ノ



穂がテ、秋ノケニキガエエバ キツウ物ガナシウテナキナワイ  
ふふハ。形りともものさへ。 飾材。ふふのそなたを記す

寛平のつぎはあまのつぎ 左京のひのやま

秋のゆかりのあかりのうら花ききまほふ物まよひく神とるあむ

○スキ、ホソ、凡デナビクハ、テウド人が色ニテ、玄シイ人ヲマ子ク袖ノ

ヤウニエエガスキ、種ハ秋の也ノ惣躰ノ草ノ袖カシラヌ けちにて

袂と神とハとて詞をうへてのこめてしげくさへ ○秋云うやうにありうら  
うの拾は澤きふたじ

素性法師

ここのちやけいこをひききりぐをぬく夕をのやましくあで

○キリぐスガマテ面白イヲカゲニふるニ候テアルノナデシコト云鬼ヲ

母親ヤ乳母ナドモ打ソロウテトモぐニテウアイスルヤウニタレニモカレニモ  
見セテ賞懸サセタイモノチヤニタツタ人ノ手デソダテル鬼ノヤウニオレ  
ツカリガア、ヨイ鬼ヤト云テ独リスハヤサウコカヤ アツタラハ花ヲ  
飾材後の説ちうーおすこあー

歌々

よみ人あはれ

みどりぬるむの草とをまへえし秋を色くれ花をそまけ家

○春見夕時ニハタ皆回レ青イツノ草チヤトツカリ思フタガサウテ

ハナイ 田 秋ニツテ今見バコトヤウニイロクノサコるナ花チヤワイ

もろさ花乃のむとく秋のゆふひとをむく人なやが花を

○ソウタイ花ノ冥クヲ紐トクト云チヤガ けヤウニイロクサングノ草ノ

花ノ帯紐トイテニダレテアル面白イ秋ノ中デドレヤコチモアノ花  
ヲ賞翫シテトモぐニニダレテアハウヲツクサウ 人が見タナラ<sup>五</sup>アレハ  
ニア何ヲチヤトフシニ思ウデアラウガユルセク

月系にハシモハシモ其形亦おぬとてのちハウツウひぬとて

○キルモノヲバ 月系ノ花デスラウ 色ナ物チヤ シタガ外へ色ノウ  
ツリヤスイ物チヤヨツテ 形ノ亦ニタレタラ 色が外ノ物ヘウツテ  
シハウモシレヌガ エイワサ 後ニハウツ、タト云テモ

仁和のみうやみとふおりのゆーる時うは多紀清純  
せむとておーはしるるさふ通昭が母のあふやどり結あり  
きり時ふを成秋のふけをさるむむむぐりのほりて

およみてもうけ

傍心遍昭

里ハあもてくをゆりにしをされやをもほが即ち秋の中らぬ

○ハヤドロ美ハ 里ハアレシタ里へ 住テヲリニスル者ハ老人シ波シニスレ  
バ信り不都合ナ 宿ユエカ波シニシテ、をモ籬モ 浄傍下サニス  
トホリトトハヤ秋ノ世系デゴサリニス 上ウのニメをのりトをつくじ

古今和歌集卷第五遠鏡

秋歌下

是久みこは秋のうなはら 文全、康秀

吹のふ秋のま本れをきり秋だうづい風をほいしとろつて暮

○フクトソノマ、秋ノ草ヤ本ガアノヤウニシラレバ、むナ<sup>ラバ</sup>チヤソレデ山ノ風

ヲアラシトハニテアラウ

。子秋云々ししとら名ハバウのてく。物をあつとてとて  
よて。金鹿々又あつと凡とつと凡とふとつとて。

草のも本を色かきとどむとて。海の流れをもも秋あけりけり

○草デモ木デモ此秋ト云時を各ガアツテ皆色がカハツテ枯テシマウケレ

トモアノ海ノ浪ノ花<sup>ツツ</sup>カリガイツデモ日シヤウニ咲テ 秋ト云<sup>テ</sup>ガナイワイ

秋のま合つけはるふあり きりけりやいむち

もみぢをぬききは乃山をぬくほのみまや秋をきりてとろつて暮

○秋デモ木は少色ノカド云<sup>テ</sup>モナウテ常佳日<sup>ニ</sup>チヤト云常磐山<sup>テ</sup>ハ時を各ガ

イツチヤカシレイガ 秋チヤト云<sup>テ</sup>ハ風吹<sup>キ</sup>まバカリデヨシテタテテアラウカ

秋のま合つけはるふあり きりけりやいむち

もみぢをぬききは乃山をぬくほのみまや秋をきりてとろつて暮

○草ガ立テアレ居ガサナワコレハモウ片岡ノ秋原ハ紅葉シタテアラウ

かみあ月あどももいよとゆふふりてうろくふ神さひののこ

○木葉ヲソメル十月ノ時雨モマダフラヌニ神ナヒノ杜ハハヤ葉テ赤下色ガ染ツク

らりやぶる神さひののこもみぢをぬききは乃山をぬくほのみまや秋をきりてとろつて暮

○心ノカリヤスイ人ニ思ヒラカケルハアハウナ<sup>ラ</sup>チヤガ け神ナミ山ノ紅葉モ

ソニチモノチヤ 思ヒハカケマイゾ ホドナウチツテシマウモノヲ

欠観清時後縁殿のまふ木の本をうらとやのうふ

きせるとり枝のみぢをぬききは乃山をぬくほのみまや秋をきりてとろつて暮

どのよみうつさふある 藤原からおむ

同くは紙と紙をそのも秋うつさふあるを秋のそらわたりし紙

○同じ一本ノ木ノ枝チヤニ西ノ方へサシタ枝ガトリ分テアノヤウニ多クカハツ  
タラズハナルホト西ガサ 秋ノハジメチヤワイノ

いー山よほしできき時かとは山乃お葉成るく  
よさを伝 づつゆま

秋風の吹やーロトりおとそ山みこれ柄も色づきまよりのり

○秋ノ立ツメタ日カラシテ凡ノ考モカハツテキタガ今日見レハ山ノ木茂モソロ  
ソロ色ガツイテキタワイ ○秋云は澤よ上りをとらぬへし 柄ゆくとつて  
凡のきもりりくることをとつせくらかのちり。

是れみらのおれら合ふあるとーのちの秋風

白雲の色は心とゆと秋乃このを紙らにをむくせ

○夢ノ色ハ皆同じツノ白イ色チヤニドウシテ秋ノ木ノ葉ヲアノヤウニイロ  
イロノ色ニツメルヤラ ○秋云はひらつとれをハのとのまをて  
むらりあつとれをむらり。

壬午の秋風

秋の夜は夢をば夢とおきねがし居乃ほやゆををむくせ

○秋ノ夜ノ夢ヲバ白イ夢テソノマデオイト 別ニ居ノナク後テ  
アノヤノ夢ヲバソメルカシラス

秋の夜は夢をば夢とおきねがし居乃ほやゆををむくせ

秋の夜は夢をば夢とおきねがし居乃ほやゆををむくせ

○秋ノ夜ハタゞ白イ物チヤトカリ思フテ居ルガサウテハナイサウナ色チヤガウ

テオクサウソソデコヲ 漆ツタ山ノ木葉ガアノヤウニサマズノ色デアラウ

わらわらなりおそよあ ついでに

あつたもさぶささしつてくもさ下葉のさぶささきふま

○おもほぬモキツウモルはち山ノ木サハト葉マデノコラス色ツイタワイ

秋のこことよあつ けりりねもやかく

ぬふさやまもいらどはうさささね山をいさうめみぢらさあらむ

○カサドリ山ノ傘ヲモツト云名ナレバ 雨ガフツテモおもホドモモリハスマ

イニドウレテアノヤウニお葉シソメタコトヤラ

沖の金一尾のけりりけりまかりきさふふがきあらし

はね葉とえそよあつ けりり

ちりや<sup>福</sup>。神のい<sup>福</sup>さふさふさささとしおはわつさうつらひふらり

○コレニア神社ノイカキニハウテアル葛ナレバ 神ノ世守リデ色ハカリ

ソモナイモノナレド ソレモ杖ニエユタヘズニ色がカハツタワイ

乞食ニはぬのさふさふささささみ糸

あふさばうささささりら乃もみぢら葉はけきうわ人乃神さささささ

○一笠取少お葉ハコト外ヨウ漆テ 往来ノ人ノ袖マデサ色がカヤイテテリ

宮内省のあのみはけさ よみ人ささささ

らゝ神もかきさささささささみぢら葉はけきうわ人の色とふんつさ

○はね葉ヲ見レバ一ダチリハ世子氏 子ヲ又サキカラサ惜イ <sup>今ハ</sup>モウ十分

ニメタレバオウ、ケチルデアラウト思ハバサ

やまやまはむらゝまかりきゝおさやうのちかたゝとて  
アウロハツテヨメキ きれとこのり

ふぐこのあゝきねまばう秋意のうたはふんばまきうとてし

○此サホ山ノ紅葉ハタガタメニドノヤウニ大切ニル錦デアノヤウニ旁ガカ  
クシテ人ニモアセヌヤラセツカク紅葉ヲ見ヤウト思フテキタニ

是穴ナニはぬのち合はがよみくちてび

秋ぎりハハきハハらそほ保あのもこの紅葉よそふてとてんじ

○旁ドウダケサハ立テクレナイアノサホ山ノ柞ノ紅葉ヲヨソカラナリト見ヤウニ

秋のちとそとめく 坂上あきけり

うたのちとそとめくをばうとこれと秋は海もぬくふとまゝかや

○ワウタイ柞ノ木ト云モノハナニボ染テモ色ノアマリ濃ウハナラヌ物ナレバ  
今ハサホ山ノ柞モ色ハウスウテ深ウハナイケレバアノケレキヲ見レバ  
サテクアア秋ハイカウ係ウナツタコカナ  
人のきんぎふふ葉にむらびつきてくちるるち

うたのちとそとめくをばうとこれと秋は海もぬくふとまゝかや

うたのちとそとめくをばうとこれと秋は海もぬくふとまゝかや

○カウシテウエテサヘオイタスバコレカラ後 秋ト云時ガナイコトガアツタスバ  
サカヌコモアラウカレラヌガ 秋ト云時ガサヘアラバツタヌトネハアルイハ今年  
ノ花コワナツテシマウケレ 根マデガ枯レウカ根ハカレハ世子バイツマデモ  
毎年秋ハ咲デアラウハサテ

寛永御時きくは花をよむせはくきく

とーり船花

とさかへはそものへまてんる葉は河戸の早まどあやまればる

○カヤウニ禁中デススル菊ノ花ハ雲ノウヘテゴザリマスニヨツテ天ノ星チヤトサトリチカヘレマスルワイ

はまのよご殿上ゆるさきざらもきくおふをーあ

まーもてはうーまうーこなん

是欠のみこはゆのま各れ秋 紀友則

あまがーなりてかざいむ菊ははあいせぬ秋のそーかぶべく

○菊ノちハ壽令ヲ長ウスル物チヤトキケバイツデモ年ノヨラヌ秋ヲ久

シウキ子テ長生<sup>チカキ</sup>ヲスルヤウニ此菊ノ花ヲ参モソマテ折テ頭ヘサウ

寛永御時きくは花をよむせはくきく

くまーは花すまらぢふろー菊うらうら秋ふあつやとやんし

○まウエ夕時ニ早ウ花ノサク秋ニタイトマチドホニ思フタ葉ガマア盛

ガコテモウ色ノカハツテシウ時葉ニツツテハヤウニナツタラヌヤウトハ  
思フタカイ  
。子秋云結るヤカドハヤ。そのまにてうらうら  
秋よわつむいハ思ハまりーのをこくつこい。

あまのーは時きくは花をよむせはくきく

乃むろ急うらうらふくまへらまきくは花をよむせはくきく

葉極うらうらとまきくは花をよむせはくきく

秋の吹くはあまきくは花をよむせはくきく

○秋風ノフク吹上ノ浪ニアルアノ白イ菊ノ花ハ 花カ サウデハチ  
イカ浪ノヨセルノカ 風ガフタナレバ浪ノヨセルヤウニモ見エルガ

仙あ小あ菊あ波あこあきあてあ人あのあつあきあるあかあとあもあめあ

素性法師

ぬきそほきそゆきのきくはあつあのあふあいつあうあ子あ年あ辰あああとあふありあむあ

○在あ布あカあハあツあテあスあバあモあハあヤあ千あ年あモあるあタあヤあウあスあチあヤあガあオあレあハあ仙あ人あノあス  
ミカあヘあイあクあトあテあ山あ乃あノあ葉あをあノあ中あヲあ分あテあイあテあ其あ葉あノあ高あニあキあルあ物あノあヌあレあタ  
ヲあ干あスあ間あホあドあノあキあツあトあマあデあアあツあタあニあイあツあノあマあニあアあ千あ年あモあタあツあタあヤあラ  
まあくあれあをあのあゆあてあ人あのあ人あまあをあかあへあれあよあめあ

さとしのり

花あらあつあくあ人あまありあとあきあまあをあああれあくあのあ神あ々あのあまあぞあゆあまあれあらあ

○花あノあ葉あをあラあスあイあクあクルあ人あヲあ待あテあ居あルトあキあニあハあソあノあ白あイあ花あガあソあノ  
クルあ人あノあ白あイあ衣あノあ袖あヤあウあニあエあテあヒあタあモあノあツあチあヤあカあトあリあチあガあヘあラあルあワあイ

大海の比乃うあふあ菊あうあをあとあらあをあとあらあをあ

一あもあやあしあ思あひあきあくあはあなあさあのあ比あはあ屋あふあもあれあうあとあ思ありあきあ

○タあツあ一本あチあヤあトあ思あラあタあ葉あをあチあヤあニあアあレあ比あノあ底あニあモあアルあワあアあレあハあ比あガ  
比あノあ底あヘあモあウあエあタあヤあラあイあヤあクあヨあウあスあレあバあ新あノあウあツあタあノあチあヤ

○千秋まあるあまあがあはあまあのあ影あハあみあまあれあきあまあぬあのあうあこあんあ

中あはあらあうあねあきあくあはあなあひあらあをありあにあきあくあのあをあ  
とあんあてあよあらあるあ けあくあゆあきあ



秋のきくゆりやうげんはくぼしてむせよりきくゆりしちぬあやう

○兼ノ花ヲ カウ咲テアルウチハおルマデハカガシテアスバウゾ アノむヨリ

サキヘ死ナウモシヌあオチヤモノヲ テソバイデハ

白菊はをよめる 元何内につね

をわくふそくばやをくせゆきおのかきさうごいさくあきぎくのき

○アノヤウニ初音がオイテ 花ヤラ兼ヤラシヌヤウニガウテスエル 白イ兼ノ

花ハタイガイスイリヤウデテラバ折モセウガ ナカク見分ラルトテハナイ

是頃みのあけら合のう よみ人あき

つゆうつる秋のきくをば一とせふゆきびふあふ花くしをく

○ハジメホドハト下格別ニ色ノカウツアノ兼ノ花ハ日シ替ノ花トハスエヌ

一年ノ内ニ度サイタむギヤトサ思ハル、御杖下白と遠くおすよらし

仁わふ兼あむゆりうゆふあきくなれとおるせ

らきりれはあきくなりりる 平ゆきぬ

秋をおきて時こそ有りれきくはむうらうらうに色ノサされを

○キクノ花ハウツロイニテカラ 又カヤウ始ヨリハ色がサリマスバ 秋ノトサ

カリバカリデハゴザリマセヌ 秋ガスギテカラ又マイチド盛リ時節ガサゴサ

リマス 恐レチカラ陛下下ノ伊美モは菊ノ花トホリト存ジナリマス

人おあゆりきくきくの花をうらうらあき

きくときをるる ぬきぬ

咲るあきゆきうらうら兼のむせきくよきうらうらひふりれ

○此葉ノ花ハ始メニ咲タヤド、ヤドガ替ツテウツクタレバ、西ノウツクタバ  
カリカ花ノ色ニテカ、アノヤウニウツクテカハツタワイ

影ノミナズ

よみ人ノミナズ

依保山ノミナズノお葉ちりぬべよふさくえよふさく〜月影

○アノサホ山ノ柞ノ木ノモミガオツケ、アウニヌエルニヨツテ、昼ハカリ  
テナニ夜モ人ニ見ヨト云テアノヤウニ月ガアカイ

みやづく久〜〜はく〜〜ま〜〜で山里よ〜〜りゆり

りふふ〜〜め

藤原関雄

おくふ乃心そらけのみぐくア〜ぬ〜〜〜日の光〜〜みなく〜

○ヒヤウニヌイ岩ノ葉<sup>ツイガ</sup>地ノヤウニ立テアル陰ニアル奥山ノお葉ハ日光ヲ

ヌル時モナニニ交テシニウデアラウト思ハレルガ、ア〜クチラシイオレガ身ノ  
ウ〜モテウド此お葉トはジ〜チヤ

顔〜〜ビ

よみ人ノミナズ

立田川もみぢらみぢれてぬ〜〜〜〜〜バ線中や〜〜えちを

○立田川ハお葉ガチリミダシテ今<sup>サハ</sup>流中流レルヤウスニ思ハレルソレデハ  
今波ツタナラバ、アウタラ後ガニ中カラキレルデアラウカイ

けあハ〜〜人な〜〜のみまのゆ〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜お葉ぢぢ〜〜お葉ぢぢのみぢぢはふお葉ぢぢ〜〜し

○此川ニお葉ガナガレル、柞ナビノ山ニ時ヌガシテ、風ガフササウチ  
お葉〜〜お葉の〜〜〜〜〜



ヲトクトスヨトテノカヤ

吹風おら乃ちらきふそつゝ八終れるものちきバわりのと

○風ニ色ハナイモノヤニアヤウニ風ノク色ガイロクニエエルドウ

シタカト思ハバ お紫ノチルユエヤワイ

せきを

裏のちて落のぬきととよくかじしらの終はちきバわりのと

○山ノお紫ハ赤ヤ赤ニ條ツテソレ錦ノヤウニナルヤ スレヤ赤ト

赤トガ赤ノハタラ織ル堅ト横トノ系ノヤウナ物ヤガソノ赤ト赤

トノタテヨコノ系ガサ弱イサウナ ソレユエカシテアノお紫ノ終ガ織ルカ

ト思ハバヤ片一方カラ破レルヤウニナリニス

うらんわんは本のつげふて。むごてよみらる

偽正遍昭

まびぐやのまびてまるとこの本ハ終むるをわくお紫おらと

○ナニジラナ身ハナカラ何ニテ難浪ナモノカナコレハタノモシイヨイ陰ヤト

思フテ思タテ、立ヨル本ノ本ハヨモ早ウお紫ガ教テニウテ教ムベキ

カゲモナクウテニウタワイ 又ナニジラナ者ノ立ヨル本ノ本ハトリウケテ早ウ

二條、后のまきま乃みやを所とヤキる時小津屋風

ふらつて川にお紫がれとるかたてけうをうり

らるを教へしよるる そをん

おみぢら終のほきてとあみらるるあきらまきあのおきほやまらむ

○けま田川ノ紅紫ガヅトトトナガレテイテトニ湊ノアタリニハツカ  
イナ色ノヨイ浪ガタワデアアラウカ

なりむしねら

ちりやぶしほ津代もきうべま田川か〜る色ねらふらほ家とは

○けま田川へシゲウ紅紫ノ流レルトコロカバトト紅カバコ麻子紅コバシボリト

見エルワイサテく奇妙ナカナ 神代ニサテぐノキメウナードモガアツタ

千ヤガ けヤウニ川ノ水ヲおミクノクノリヅメニシタトキハ非代ニモイツカウ

キカヌー千ヤ ○お秋エゲツとぞめハ合式など  
中もろくして縷纏といふこと

是々みよのあはれあ合のあや〜ゆねのねた

こがまつ〜か〜もあ〜まび〜らぬほふあ〜はみよのちつと〜ま〜ふ

○此クラブ山ノ木ドモノコノハノミ中千リマカウノデ 今トホツテ来  
夕方モドチカラキタヤラシメヌ

ゆびみよ

津形びりみむらのうは秋ゆけは海とちき〜らち了そとれ

○今秋ノコロは神ナビノミムロノ山ヲトホレバ 紅紫ガチリカイルデ 綿

ヲ着ルコモチガサスルワイ ふ秋エ〜ちの俣ちき〜ハ後修〜ハ  
は阿らき〜ら〜き〜

少山〜もみら〜を〜む〜てまわきりら家時ふ

〜と名家 貴〜

るはくもね〜そあぬ〜おく山乃あ紫ハ〜るけや〜きぬ〜ら〜

○ナニデモセンナイコヲ夜ノ後ト云チヤガスルモノナニハヤウニムダニ散テシ

一ウタ奥山ノ紅葉ハナニボスオデ海ノヤウデモニコトニ夜ハ海チヤワイ

秋のうら

かよむ秋玉

立田姫もむらみ秋のあはれがうそ秋のあはれはぬきくちりらめ

○立田姫ハ神根チヤガソレデモ又内手向ナサル神根ガアルヤラコウ

内手向ノ内深チヤ多紅葉ガアレトトノ向ノ麻ラチラスヤウニチリマス

少也しりふとくはふもみゆきも時もみらをとるて  
トウケノ海 けしゆき

秋の山ノ紅葉はぬきくちりらめむらみ秋のあはれはぬきくちりらめ

○秋ノ山デハアレイトホリニ紅葉ノチヤウスガテウド旅人ノ多クチヤウノ麻  
ヲチラテ手向テウクヤウニエニヨウテ住テ居ルチヤウデサドウヤラ旅ノコチカスル

秋の山ノ紅葉はぬきくちりらめむらみ秋のあはれはぬきくちりらめ

秋の山ノ紅葉はぬきくちりらめむらみ秋のあはれはぬきくちりらめ

○コナモ今秋ナビ山ヲヒテキテ立田川ヲ渡ルガ 昔テウク秋モノトホリテ

神ノコサル神ノ山ノ紅葉ハモウ散テウハヒテ西ヘユケバアレアヤウニ紅葉ノ麻

ヲバ立田川ヘサタケテス 秋の山ノ紅葉ハモウ散テウハヒテ西ヘユケバアレアヤウニ紅葉ノ麻

立田川ノ紅葉ハモウ散テウハヒテ西ヘユケバアレアヤウニ紅葉ノ麻  
立田川ノ紅葉ハモウ散テウハヒテ西ヘユケバアレアヤウニ紅葉ノ麻

立田川ノ紅葉ハモウ散テウハヒテ西ヘユケバアレアヤウニ紅葉ノ麻

立田川ノ紅葉ハモウ散テウハヒテ西ヘユケバアレアヤウニ紅葉ノ麻

三田川のほとり野上ある 坂上是別

かみぢら茶は茶ふがれづうせむき田川あゝの秋をばあけうきし

○木葉ノ青イノ色ノカルテ秋がしらが水ノ青イノ色ノカラヌ物ナバ秋がしら  
ニ今三田川水ヲんばお茶が流レテ秋チヤトキガシタモハヤウニお茶ノ  
流レテガナイエラバ水ノ秋ヲドウテ誰ガシラウヅニルモノハアルマイ  
あがれどごえよしよる ちよみちほほき

山ほり風けうけとまぐみと流きもいぬもとぢりり  
○山川へアレ風がモテキテガラミラカケタトんルハ手ガモセズトツテアル  
お茶チヤワイアレ風ガラテアメリシゲウお茶ガ散テセキカケク流レテクルニ  
ヨツテサラクトトへエ流レテハイカズニアトホリニシカラミヤウニヨドムチヤ

比のほとりにてお茶のちとよあゝ みつ糸

風ぬをばあつちみち茶あははらゝ思新さへ屋へんて

○風ガフケバチトヅソロくお茶ガチリカケタカハ比ノ水ガキヨサニマダチラ  
ズニ枝アルお茶ノ新マデガリコヨウウツクテハヤ大分散チヤウニスエル  
亭子院のほ屏風のけりー川ささきとささき人の  
ももぢらぬらる本のあふるはむうへくあてを  
よのせほいりさづうううううう

あちとあつちを海しひりみちをみぬとともあはまきし  
○ビラクま上ツテアルお茶ラヌテカラハ川ハ後ラウ雨カフルあガマニテ  
川が後ラヌチヤガお茶ハぬヤウニチボフツタトモ水ハニハスアイホドニ

と乞ふみよの歌はあ合のちしゆびみよ

山田も秋のかりわおしく暮といまおれをきつのはなりきり

○秋ノコロ山ノ田ノ番ヲスルは小座へはヤウニ暮ノオイタハ 掃員もガ  
ハゴロオテシゲウツケバソノナミダギヤワイコレハ

歌しつら しみんあしど

ほふもおぬ山をりふくぬづれいあどのあおぬもぬ日ハまし

○ミダ穂モテ又山田ヲトウカラ番ヲスルトテ毎ヨク稲ノ葉ノ夢デキル  
モノ、ヌレヌ日ト云ハナイ 百姓ト云者ハア、ナニギナモノヤハヤウナ

ヤウスラ上ニハおぬアルマイガ 夜衣ハいやーき者のきりのん  
○子秋を君くる人をおよふゆくととらして時いよふべきらん下としてきき人乃  
あんをへともおなり、又きき人の下でたれうさむをいよくちりーりすへきハらん

かきつ山おあつらむつらのわおぬいそ成今さふりきこそぬとら

○菊テシラ田へ又アトハエタヒツチノ穂ノテヌハ 時暮モウ秋ガハテタ  
世中ラモウアキハテタシ今サラ穂ヲサウヤウナイト思テウカイ

小山は傍山遍昭しくわけづらふおぬりきりあふ  
よせむ法師

かみづらあを神ふら記つきておぬむ秋ハ浪とるむ人のしと先

○はね紫ヲバ袖ヘコキオロテハテ持テハ山ヲ出テイニテマヤケニセウ人ハ定  
メテ秋ハモウハヤシイキヤト思フテ居テアラウガサウウテ居人ノタヌキ

完年、ゆ時ふら記つきておぬりきりあふ  
立園もみづら紫あがるといふさ波うきてそのたさど



心をよめりきき おきこのせ

みやまをくまなくあはれをてを秋はけうと思ひしをぬ

○モニヤ山ナドニハダ秋がゆつテアルデモアラウカト思フタガ  
ハヤウニ山カラあたる紫ノ流レテクルあノ色ヲ見レバササテ  
ハモウイヨク秋ハヒトニナウタト思ヒニツタ

秋は月をまらを立田に小舟ひやアアとよめ

はらゆき

し年あつたもみぢ紫がを立田川みるや秋のまわり形もむ  
○毎年く秋の紫ヲ筏ヤ船ヤウニ流レテアル立田川ハ川下ノ  
湊ガ秋ノトマル所デアアラウカイソレヲ湊へる子テイテ秋ニ逢タイ

モノチヤクレテユクノハノコリオホイ秋チヤニ

あづきのはじめは日大井少とよめ

夕月をくはらひし庭のあけうちや秋はくしむ

○一ケフハ九月晦日デモウ日モクレカタニウタガアレク小倉山デ鹿  
ノナク長イ声ノキヌウチニハヤ秋クレテシウデアアラウカ

はらゆき

さあはらゆきもゆきもみぢ紫をぬきよめて秋は紫はら

○秋ハモウお紫ヲチルヲ道ノ神ノ麻ニテ手向テ旅立ニテイデシマウ  
タワイサテモくおり多イノカナ道ヲシタラ跡カラ尋テナリヒユカウ

古河和歌集卷第六巻後

冬之奇

野崎の冬

よも人あはげ

多しと川流ありかかみる月志ら此の面をよとぬきふし

○立田川へお祭ノ夜テ流レルトコロアスバ ぬぬノ系ノヤウナヌラ  
登換ノ系ニシテ機へカケテ流ラ減ルトスエル

冬之のあそびようめ

源宗千太郎

山里ハ冬をどけびしきまきりきる人をもあもかきぬと思へを

○山里ハイツテモサビシイガ冬ハサバツテサビシイガシタワイ人ノコヌヲ人目ガ

カレトニチヤガ今マデハタマク見エ夕人目モカレ系モ梳タニヨツテサ  
かきぬとどむとどかきぬとどいふゆと思ふとあしはゆ多し

野崎の冬

よも人あはげ

大空の月をむしりしはるも色バ新スーいぬぞまげこありき

○昨夜ノソラノ月ガキツウサエタニヨツテクノ新ノ見エ夕水ガサケサハアノ

ヤウニニツバンニホツタワイ

○子秋云ニのり菱衣万葉朗詠ふとふき  
はまばとあそびの方まきりてはゆ

夕ぎきば夜をいむしみりせむしむしむしむしむしむしむしむしむし

○ヤゴロハユフカタニレバイカウキイマツ著ニヤナラヌコレハモウ

吉野山へハチガフツタサウナ

よもいりハはぎてぬしむしむしむしむしむしむしむしむしむしむしむし

○コレカラハツバイテ<sup>ほ</sup>フレカシコチノ庭ノス、キヲオシナビカシテ  
ツモツタアノ雪ノケシキキツウオモシロイ

ぬる<sup>り</sup>ち<sup>り</sup>が<sup>り</sup>川<sup>を</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>り</sup>し<sup>し</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>山<sup>の</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>つ<sup>つ</sup>せ<sup>せ</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>る<sup>る</sup>之

○山ハ雪ガフルヤウスヤガフルウチニハヤ片<sup>かり</sup>二方カラサキエルサウナソノ

雪ドケトスエテアノ山カラ流レ落ル川ノ水ガミテ<sup>ち</sup>ガアレ高ウナツタウ

け川<sup>の</sup>ふ<sup>も</sup>み<sup>ぢ</sup>ら<sup>ら</sup>系<sup>系</sup>が<sup>が</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>音<sup>音</sup>を<sup>を</sup>れ<sup>れ</sup>あ<sup>あ</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>今<sup>今</sup>満<sup>満</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>

○此川ハお<sup>お</sup>葉<sup>葉</sup>ガ流<sup>流</sup>レルコ<sup>コ</sup>ノ<sup>ノ</sup>流<sup>流</sup>レテ<sup>テ</sup>コ<sup>コ</sup>ナ<sup>ナ</sup>ガ<sup>ガ</sup>今<sup>今</sup>ア<sup>ア</sup>ノ<sup>ノ</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ニ<sup>ニ</sup>流<sup>流</sup>レテ<sup>テ</sup>キ<sup>キ</sup>タ<sup>タ</sup>ノ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>川<sup>川</sup>上<sup>上</sup>

ノ奥<sup>奥</sup>山<sup>山</sup>ノ音<sup>音</sup>ドケ<sup>ケ</sup>テ<sup>テ</sup>水<sup>水</sup>ガ<sup>ガ</sup>増<sup>増</sup>タ<sup>タ</sup>サ<sup>サ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ナ<sup>ナ</sup>ツ<sup>ツ</sup>テ<sup>テ</sup>川<sup>川</sup>上<sup>上</sup>ニ<sup>ニ</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>ド<sup>ド</sup>テ<sup>テ</sup>ア<sup>ア</sup>ウ<sup>ウ</sup>タ<sup>タ</sup>木<sup>木</sup>葉<sup>葉</sup>ガ<sup>ガ</sup>今<sup>今</sup>流<sup>流</sup>テ<sup>テ</sup>クル<sup>クル</sup>ギ<sup>ギ</sup>ヤ

な<sup>な</sup>つ<sup>つ</sup>ち<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>し<sup>し</sup>ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>る<sup>る</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>む<sup>む</sup>す<sup>す</sup>日<sup>日</sup>も<sup>も</sup>み<sup>み</sup>ち<sup>ち</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>日<sup>日</sup>々<sup>々</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>

○け吉<sup>吉</sup>セ<sup>セ</sup>ノ<sup>ノ</sup>里<sup>里</sup>ハ<sup>ハ</sup>ち<sup>ち</sup>山<sup>山</sup>ガ<sup>ガ</sup>近<sup>近</sup>イ<sup>イ</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>ツ<sup>ツ</sup>テ<sup>テ</sup>ケ<sup>ケ</sup>ナ<sup>ナ</sup>一<sup>一</sup>日<sup>日</sup>モ<sup>モ</sup>雪<sup>雪</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>フ<sup>フ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ヌ<sup>ヌ</sup>日<sup>日</sup>ト<sup>ト</sup>云<sup>云</sup>ハ<sup>ハ</sup>ナ<sup>ナ</sup>イ

氷<sup>氷</sup>を<sup>を</sup>や<sup>や</sup>ハ<sup>ハ</sup>音<sup>音</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>き<sup>き</sup>て<sup>て</sup>さ<sup>さ</sup>よ<sup>よ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>し<sup>し</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ<sup>こ</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>し<sup>し</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>バ

○コ<sup>コ</sup>ノ<sup>ノ</sup>在<sup>在</sup>ハ<sup>ハ</sup>イ<sup>イ</sup>ナ<sup>ナ</sup>メ<sup>メ</sup>ニ<sup>ニ</sup>音<sup>音</sup>ガ<sup>ガ</sup>ツ<sup>ツ</sup>モ<sup>モ</sup>ツ<sup>ツ</sup>マ<sup>マ</sup>デ<sup>デ</sup>道<sup>道</sup>モ<sup>モ</sup>ナ<sup>ナ</sup>イ<sup>イ</sup>フ<sup>フ</sup>ニ<sup>ニ</sup>分<sup>分</sup>テ<sup>テ</sup>石<sup>石</sup>子<sup>子</sup>テ<sup>テ</sup>クル<sup>クル</sup>人<sup>人</sup>

ガ<sup>ガ</sup>ナ<sup>ナ</sup>イ<sup>イ</sup>チ<sup>チ</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>ツ<sup>ツ</sup>テ<sup>テ</sup>サ<sup>サ</sup>を<sup>を</sup>ツ<sup>ツ</sup>テ<sup>テ</sup>クル<sup>クル</sup>人<sup>人</sup>ガ<sup>ガ</sup>ア<sup>ア</sup>ラ<sup>ラ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ナ<sup>ナ</sup>ラ<sup>ラ</sup>セ<sup>セ</sup>メ<sup>メ</sup>テ<sup>テ</sup>乃<sup>乃</sup>ハ<sup>ハ</sup>シ<sup>シ</sup>テ<sup>テ</sup>ア<sup>ア</sup>ラ<sup>ラ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ニ

其<sup>其</sup>の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup> 紀<sup>紀</sup>や<sup>や</sup>ら<sup>ら</sup>く

音<sup>音</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>バ<sup>バ</sup>音<sup>音</sup>ご<sup>ご</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>音<sup>音</sup>も<sup>も</sup>本<sup>本</sup>も<sup>も</sup>音<sup>音</sup>ふ<sup>ふ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ね<sup>ね</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>を<sup>を</sup>ど<sup>ど</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>

○冬<sup>冬</sup>ガ<sup>ガ</sup>レ<sup>レ</sup>テ<sup>テ</sup>マ<sup>マ</sup>ダ<sup>ダ</sup>メ<sup>メ</sup>モ<sup>モ</sup>テ<sup>テ</sup>マ<sup>マ</sup>草<sup>草</sup>モ<sup>モ</sup>本<sup>本</sup>モ<sup>モ</sup>音<sup>音</sup>ガ<sup>ガ</sup>フ<sup>フ</sup>レ<sup>レ</sup>バ<sup>バ</sup>よ<sup>よ</sup>き<sup>き</sup>ハ<sup>ハ</sup>サ<sup>サ</sup>タ<sup>タ</sup>ナ<sup>ナ</sup>シ<sup>シ</sup>ノ<sup>ノ</sup>花<sup>花</sup>ガ<sup>ガ</sup>サ<sup>サ</sup>

イ<sup>イ</sup>タ<sup>タ</sup>ウ<sup>ウ</sup>イ<sup>イ</sup>ツ<sup>ツ</sup>ウ<sup>ウ</sup>タイ<sup>タイ</sup>花<sup>花</sup>ハ<sup>ハ</sup>よ<sup>よ</sup>き<sup>き</sup>ニ<sup>ニ</sup>ツ<sup>ツ</sup>テ<sup>テ</sup> 咲<sup>咲</sup>ク<sup>ク</sup>モ<sup>モ</sup>ノ<sup>ノ</sup>チ<sup>チ</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>ニ

志<sup>志</sup>ガ<sup>ガ</sup>此<sup>此</sup>山<sup>山</sup>に<sup>に</sup>え<sup>え</sup>そ<sup>そ</sup>て<sup>て</sup>よ<sup>よ</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup> 其<sup>其</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>き<sup>き</sup>さ<sup>さ</sup>み<sup>み</sup>の<sup>の</sup>

白<sup>白</sup>雪<sup>雪</sup>は<sup>は</sup>ち<sup>ち</sup>も<sup>も</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>く<sup>く</sup>び<sup>び</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>け<sup>け</sup>は<sup>は</sup>ち<sup>ち</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>さ<sup>さ</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>つ<sup>つ</sup>れ

○音<sup>音</sup>ガ<sup>ガ</sup>ド<sup>ド</sup>コ<sup>コ</sup>ト<sup>ト</sup>ニ<sup>ニ</sup>ナ<sup>ナ</sup>シ<sup>シ</sup>メ<sup>メ</sup>ラ<sup>ラ</sup>メ<sup>メ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ツ<sup>ツ</sup>モ<sup>モ</sup>ツ<sup>ツ</sup>マ<sup>マ</sup>本<sup>本</sup>テ<sup>テ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ナ<sup>ナ</sup>ウ<sup>ウ</sup>テ<sup>テ</sup>花<sup>花</sup>ノ<sup>ノ</sup>サ<sup>サ</sup>ク<sup>ク</sup>マイ<sup>マイ</sup>岩

へモサ花が咲タトスエル

。十秋三ち賀の山にえい花の名どしりなれい。その花のしとどひてよめらあらん。

なつた糸ふまかとりはるとはよやくれりきとよ

ろくしよえん

ねとあきのこ

みよー地の山れろく岩はわろししをなましくぬりまきらあや

○今夜ハ吉野山ノ岩ガイカウツモルサウナ ソレテ此ヘンマデガコノヤウニダシクサムサガニサルヂヤ

宮平吉野山ノ岩ガイカウツモルサウナ ソレテ此ヘンマデガコノ

浦ちやくぬりくろ岩ハあし波の末乃やうの山をかくとどみる

○カノ奥州ノ末ノ松山ト云所ハ古ラニ浪モコエナトヨシデアツテ名ノミイコチヤガ今カウ海也近イアノ岩ノツテケキハ白イ浪ガマコ

トニツ末ノ松山ヲサコエルノカトスル 餘材ハ初句と末の松山乃あつりの浦ト云くろ岩ハあし波の末乃やうの山をかくとどみる

壬午の末乃

みよー地の山のろく岩ぬりていつとあし波の末乃やうの山をかくとどみる

○吉野山へ涼イ岩ヲフミ合テコモツタ人ガこ後一向ニオトジモナイガ岩ガ陰クフカウナツテ使リモシラヌカキヨクセウナカ 氣ノ

ツヨイ下ナレバモシワツラハレナドハセヌカ アニジラル、ワイ

ふ雪のありてはわかきく山里ハとむ人さくやひきゆ

○雪ノフツテ陰クフカウツモツタ山里ハサツマキウハアラウシサビシウハアラウシ サウ云所デハ住テ居ル人マデガ心ノキエイルヤウニモフデカナアラウ

雪ハシマイニ消ルモノチヤガソノ音ヤウニサ心マデガ

音ヤウニサ心マデガ 元内内なる線

音ヤウニサ心マデガ 元内内なる線

○雪フリニカウニ居ル我心ハメトバハヤウニ音ガフツテ人トホリモ絶テ

足跡モナウナウテソコト云物モシヌヤウニ消テニウ道ノヤウナ物ヂヤヤラ

カウニ居ル心ガキエヤウナ 。ふ秋云ニの夕のるもやう。ほ夕のらんとの

音のちとくはよみらる 清ふぬみやぶ

あつひ此澤をゆく味ひてきこべし。

○マダ冬ナカラヤカラアノヤウニ花ノ数テクルハアノヤウニアチラハモウ

まぢヤカシラヌ

雪のふふやうか、まらもきこふ心とまら

つゆき

みぢのうたのひうきぬをちのまより花とつらまで音ぞあやらる

○今ハ冬ガレデマダメモデヌアノ本ナバ呂ヒガケモナイニ枝ノアヒダ

カラ花ノチルトスエルホドニサ音ガフルワイ

やまやけぬふゆりぬるらる音のありき海辺

コトコトよきと 坂上こそこのり

船がけつめり月とるるまぢふよけり里にふれは白音

○カウ夜ノ引リトアケタ時ニ元バテウドをぬく月ノ沙ツタ影トスルホドニ

音ヤウニサ心マデガ 元内内なる線

歌一山文

よみ人志しん

とやぬがうしふ又もふりあけ去花もあらふみまきねしそをんめ

○ハ雪ハ一ダキエヌウヘモ又ツイテフリカサテオツケまがキテ花  
ノタツ時ニナツ多ナラニニウフリモセウケレ座ハハスラレマイホドニ  
梅もそまどとるいむさかこけあふきくちのらあてぬまづば

○三 あるぎ 雪ガオシメテドコモカモフツタレバ 梅ノ花ガ梅ノ花ト  
モハエヌ 同シ白サチヤニヨツテ

此のうらふいしにかきのわんまけうしゆり

梅のあふきのあつとあつふむむのたに

花の色ハ赤ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

○花ノ色ハ雪ニニジツテソト分レテ見エズ人ガ梅ノ花チヤトニルヤツ

セメテ香ナリトモ ハツキリトニルヤウニホヘ

香のうらめは梅とよあつ きのはらぬ

梅のあつゆりおらるちあふまがひせふあれうあつゆりいそそとほし

○梅花ハ色ハ白ウテ香ニガウガモシ香ニデガ色ヤウニツモツタチテ  
下ガウナラバ誰ガ雪ト梅花トラヨウベツクニヌ台テ折ウグイタレモ  
エヌ台ケハスイ 香カガハ子バコフ

あつゆりらるふとあつゆり 紀とこのつま

ちあふまがひふ花があつゆりあつゆりあつゆりあつゆりあつゆりあつゆり  
○雪ガフレバ何ノ木モ三ツ花サイタヤウチウイ ドレヲ梅チヤトヌ台テ

ヲラウヅドウモスルケニクイ

ヨソへイタ人ヲ  
おくすかりりいんをきまらしてまづそのつづき

フーとらんふ

みつ

りがゆいぬ年ハ本ぬれど冬草の初め一人ハおづきもせど

○コナガマモセヌ来年ノ年ハモウ近ウキタケレバ今ジブノ草ノヤウニ

カレテヨソへイタ人ハコナガコホド待ツノニマダカツテコヌノミナラス子カラ

オトヅレモセヌカレト云ハヨソへイテヨリツカヌトイヤゾイ

おーおーおーおー

あーあーあーあー

何〜何〜何〜のそりふね〜ふね〜ふね〜ふね〜ふね〜ふね〜ふね〜

○二年ノ終リニナルタゴトニ君モフリサルガコナガ身モ後フルサガマ

サツテサ次ガ二年ガヨツテイタアコニツタモノヤ

寅年は時きまのまはる合のうよみ人まらど

雷あらし年のまらぬおあ〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜

○今マデもヤヤヤヤああガフツモ松ハ色ガカラナタガ乙デモマダ

ウノ雪ガフツタラバモシ色ガカルデモアラウカト思フタガ今ハヤウニ色ガフツ

テモヤツハリ色ハカハラスニモウ年ガタレタカラハサテハト知〜シウ色ノ

カハラヌ松ヤトキ〜モゴ〜デコソスエタモノナレ

とーのそ〜ふ〜あ〜え〜い〜あ〜の〜あ〜い〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

○昨日今日明日ト云テ一日ノトクラニテツイモウ年ノ多シニツタヤ

アスカバノ水ノ早ウ流ヒテクヤウニアサ方ク早ウ多ク月日チヤワイ

シヨナレシヨナレセシキシヨナレシヨナレ

キヨクシヨナレ

ゆいこ〜ゆいこ〜ゆいこ〜ゆいこ〜ゆいこ〜ゆいこ〜ゆいこ〜ゆいこ〜ゆいこ〜ゆいこ〜

○年ノモルニシタガウテ次カニ後デスル新テガツムリカ多ク白ニナリテ

面ハシワガヨツテヤウニオイセタイクト思ハサテク暮テユク年ガニア

ラシウヨルノ一カナ

まじぶ〜このまじぶ〜



